

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2018

4月

No.154



特集 P2・3

平成30年度
事業計画と予算

支え合いふくレプランを推進
「ほっとけない」を
ほっとかない空栗に



ひ孫と
いっしょ

シリーズ153

一宮町西公文

村田 光治さん(95歳)

○琉斗くん(10歳) ○颯空くん(7歳)

○輝吉くん(6歳)

村田 啓伍さん・あゆみさん
■長男・次男・三男

支え合いふくしプランを推進

「ほっとけない」を ほっとかない 穴栗に



第34回評議員会では、配食サービス事業や訪問入浴サービス、災害救援活動、ご近所ボランティア等について、評議員のみなさまから貴重なご意見をいただきました(一宮保健福祉センター)

穴栗市社会福祉協議会(以下、本会)では、3月27日の第34回評議員会において、平成30年度事業計画ならびに予算を可決しました。今月号では、平成30年度の重点事業、資金収支予算の概要についてお知らせします。

平成30年度は、穴栗市社協第3次地域福祉推進計画(愛称・支え合いふくしプラン)の3年目となります。

地域福祉目標の「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」・「ほっとけない」をほっとかない穴栗に」をめざし、地域住民の皆さんや関係者の力を一層結集させ、本会の役割を認識しながら諸活動を全力で推進します。

◆平成30年度の重点事業

●役職員業務研究会による重点事業の推進

支え合いふくしプランで掲げている①防災・福祉マッ

づくりの推進、②市内山間部の集落福祉の推進、③子どもたちが福祉を学ぶ環境の整備、④生活困窮世帯等への支援対策、⑤財源確保と財源の使い道の明確化の重点事業について、本会理事と職員で調査・研究を行い、地域福祉サービスの資源開発や事業の推進に繋げていきます。

●地域を元気にするための協議の場(住民主体の協議体)づくり

多様な立場の住民が、地域の課題を共有し、地域の活性化や課題解決に向け、自由に話し合える場づくりを進めます。旧町域や校区等で設置の

委員会や、自治会福祉連絡会(地域見守り会議)等を協議の場と位置づけ、地域で暮らし続けるための支え合いの仕組みをいっしょに考えます。

●市内の社会福祉法人連結会の組織化

平成29年度から施行された改正社会福祉法により、社会福祉法人は、一層の経営管理体制の強化や事業運営の透明性の向上とともに、地域における公益的な取組(地域貢献活動)の推進が求められており、穴栗市においても、市内の社会福祉法人が連携して取組むための組織化を進めます。

●第7回穴栗市地域福祉のつどいの開催

支え合いふくしプランの進捗状況の報告(成果や達成度、課題など)や、住民主体の地域づくりや支え合い活動の実践発表などを通して、社協の使命である地域福祉の推進について、市民のみなさんと考えることを目的につどいを開催します。(2年に1回開催)

◆平成30年度資金収支予算書

(単位:千円)

勘定科目		本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	差引増減額 (A) — (B)	摘 要	
事業活動による収支	収入	会費収入	13,200	13,230	△ 30	社協一般会費（6月）、賛助会費（2月～3月）
		寄附金収入	11,920	10,690	1,230	善意銀行預託金
		経常経費補助金収入	72,834	71,923	911	市、県からの補助金収入
		受託金収入	33,836	34,016	△ 180	市から委託された事業の受託金収入
		貸付事業収入	200	200	0	低所得の方への小口貸付償還金
		事業収入	12,306	11,880	426	参加費収入、利用料収入等
		共同募金配分金収入	10,794	10,734	60	共同募金配分金 7,494千円 歳末たすけあい募金配分金 3,300千円
		負担金収入	1,370	1,370	0	老人クラブ連合会、福祉団体からの負担金
		介護保険事業収入	205,306	208,445	△ 3,139	介護保険事業による収入（デイサービス、ヘルプサービス等）
		障害福祉サービス等事業収入	27,462	22,051	5,411	障がい者自立支援事業による収入（障がいホームヘルプ、相談支援）
		受取利息配当金収入	815	855	△ 40	預金利息
		その他の収入	250	870	△ 620	職員派遣収入、印刷代他雑収入
		事業活動収入計（1）	390,293	386,264	4,029	
	支出	人件費支出	288,468	289,986	△ 1,518	役員報酬、職員人件費
		事業費支出	40,255	39,115	1,140	社協事業全般に関する事業費
		事務費支出	35,777	33,704	2,073	印刷製本費、通信運搬費、事務機器・車輛リース料、事務消耗品費等
		貸付事業支出	200	300	△ 100	低所得の方への小口貸付金
		助成金支出	19,192	19,519	△ 327	自治会福祉連絡会、ボランティアグループへの助成 敬老会実施のための助成金等
		負担金支出	337	319	18	全社協・県社協負担金、その他事業の負担金
		利用者負担軽減額	94	94	0	低所得世帯に対する介護保険サービス等利用料軽減額
		その他の支出	229	0	229	退職手当積立基金預け金差損
		事業活動支出計（2）	384,552	383,037	1,515	
	事業活動資金収支差額（3）＝（1）－（2）		5,741	3,227	2,514	
施設整備等による収支	収入	固定資産売却収入	0	1,000	△ 1,000	
		施設整備等収入計（4）	0	1,000	△ 1,000	
	支出	固定資産取得支出	170	150	20	生活困窮者支援事業 米保管庫の購入
		施設整備等支出計（5）	170	150	20	
	施設整備等資金収支差額（6）＝（4）－（5）		△ 170	850	△ 1,020	
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入	6,214	10,545	△ 4,331	全社協退職積立払戻金
		その他の活動収入計（7）	6,214	10,545	△ 4,331	
	支出	積立資産支出	50	50	0	積立預金受取利息分を積立
		その他の活動による支出	9,020	8,537	483	職員退職手当基金への積立
		その他の活動支出計（8）	9,070	8,587	483	
	その他の活動資金収支差額（9）＝（7）－（8）		△ 2,856	1,958	△ 4,814	
予備費支出（10）		500	500	0	予備費	
当期資金収支差額合計（11）＝（3）＋（6）＋（9）－（10）		2,215	5,535	△ 3,320	総収入－総支出	
前期末支払資金残高（12）		177,926	155,033	22,893	平成 29 年度分の繰越金	
当期末支払資金残高（11）＋（12）		180,141	160,568	19,573	平成 30 年度末の資金残高予定額	

平成30年度予算について

○葬祭用具貸出事業の終了により、公益事業は廃止に

社協合併後、公益事業として取り組んできた「葬祭用具貸出事業」は、ここ数年利用が年間1~2件と少なくなっていることから、事業を終了し、今後は地域福祉事業の備品貸出事業のひとつとして行うことになりました。

これにより、「福祉有償運送事業」「介護員養成研修事業」「葬祭用具貸出事業」と3つあった公益事業は、経営改善の取り組みの中で全て終了しました。

○障害福祉サービス収入を増額

相談支援事業は、年々利用が増えていることに加え、障害ヘルプサービスで、介護度の高い方や支援が困難な方に対しより質の高い介護

サービスを提供する特定事業所加算を取得することで、541万円の収益増を目指します。

○燃料費や給食材料費など事業経費がアップ

介護事業で使用する灯油や会車等のガソリン等の燃料費や給食材料費、通信運搬費等の値上がりにより、事業費支出で114万円、事務費支出で207万円と経費増としています。

※本年度の事業計画書、予算書の詳細については、本会ホームページ、本部・各支部の窓口でご覧いただくことができます。ご遠慮なくお申し出ください。

やさまざき

公民館で「ふくしの出前講座」

川戸福祉連絡会

3月11日(日)、川戸自治会で、ふれあい喫茶に合せて車いす体験学習会が行われ、75人の参加がありました。

この学習会は、川戸福祉連絡会から、「新しくなった公民館で何か福祉学習ができないか」と本会へ相談いただき、「ふくしの出前講座」として職員が同い、車いす体験を行うことになりました。

当日は、以前学校で車いす体験を学習した子どもたちも先生になって活躍しました。参加者からは、「初めて車いすに乗ったけど、こんなに難しいとは思わなかったわ」「少しの坂でも力が要るね。実際に自分で操作すると、相手の気持ち理解できる」と話されました。

代表福祉委員の志水照美さんは、「車いす操作の体験者が



秋に完成した新築の公民館。多機能型トイレや公民館前のスロープ、階段などを実際に体験してみました。「子どもたちの方がじょうずやわ」(川戸公民館)

意外に少ないことにびっくりしました。このような機会が持てて良かったです」と学習会の取り組みの必要性を話されました。

社協では、このように公民館や学校、職場へ出向いて出前講座を行っています。

今後、住民に福祉への理解を深めてもらえるような機会を作っていきます。

(山崎支部 山本めぐみ)

いのちのみや

参加者みんなが主役やで

杉田のいきいき百歳体操

杉田自治会では、3年前からいきいき百歳体操を取り組まれています。

3月14日(水)、公民館に何うと15人が参加し、体操後に歌やお手玉を楽しまれています。

「毎週水曜に、ここに集まるのが楽しいんですよ」「人と出会ってええことやなあ。体操の後もみんな楽しくやるのが大切やね」との声が聞かれました。

「歌が得意な人が前に出て歌ったり、お手玉を持ち寄って遊んだり、参加者みんなが主役なんです。だから、欠席の方があると気になって電話や訪問することもあるよ」と世話役の松本政子さんは笑顔で話されます。

みんなが集まる時間を楽しく過ごしたい、との



「みんなで集まるから元気になるんや。さあ、今日も頑張ろうで」(杉田構造改善センター)

思いで始められた杉田のいきいき百歳体操は、だれもが何らかの役割を持って参加されています。

毎週顔を合わせる関係は、普段からの声かけや見守りにもつながっているようです。

みなさんの地域でも、参加者みんなが主役の集いの場づくりに取り組むのはいかがでしょうか。

(二宮支部 上川あゆみ)

は
が

「深夜1時に避難勧告。今すぐ非難する？それとも家に留まる？」といった質問や「遠くにいる家族の命を優先する？それとも目の前の他人の命を優先する？」等、正解のない問題

た。また、研修として防災意識を高めるため「災害時に自分ならどう動くか」をテーマに、災害対応ゲームクロスロードでグループワークを行いました。

災害が発生、その時あなたは??

代表福祉委員連絡会

3月23日（金）、メイプル福祉センターで代表福祉委員連絡会を開催し、代表福祉委員と波賀地域福祉推進委員の計19人が参加しました。

連絡会では、推進委員から波賀支部かわら版「ほっこり通信」の紹介があり、福祉委員活動の一環として地域の見守り訪問を兼ねた個別配布を依頼しました。

また、研修と



こんな時どうしたらいい??みんなで意見を出しあうことで、自分以外の考えもあることに気づきます（メイプル福祉センター）

にみなさん頭を悩ませながらグループで意見を出し合いました。
西中登美子推進委員は、「難しい質問に頭を悩ませました。でも、みなさんの意見を聞くことで気づくことも多く、改めて研修の大切さを実感しました」と話されました。
本会では、今後も地域の福祉関係者の連携を大切にし、このような『学びの場』をそれぞれの自治会で行えるように様々な情報の発信や福祉学習を提案していきます。

（波賀支部 田中祥仁）

ち
くさ

集まるんは楽しいな

千草ふれあい喫茶

3月18日（日）、ちくさえとこセンターを会場に千草ふれあい喫茶が行われました。

千草自治会では、喫茶の充実を図るため、スタッフの構成や会場の変更など、新しい体制で準備を進めてきました。

当日、会場にお伺いすると、スタッフの方がオープンに向けて着々と準備を進めながら、台所では丁寧な盛り付けが行われていました。



当日は、21人が参加されました（ちくさえとこセンター）

午前10時、喫茶がオープンすると次々とお客さんが来店し、「久しぶりやな。元気にしとったか」との会話がたくさん飛び交っていました。

そして、「集まるんは楽しいな。このような場所があったら普段会えない人とも会えるから嬉しい」との声が聞かれました。自治会長の森井俊二さんは、「若い子から高齢者の方までのふれあいの場にしたい。外に出にくい人に来てもらえるようになったら嬉しいけどな」と、思いを語られました。

今回、新しい体制でプレオープンした千草ふれあい喫茶。当日、モニターとして参加された方々からもいろんな意見を聞くことができたたくさん参考になったようです。

これから地元のみなさんに喜んでもらえるような喫茶になるよう期待しています。

（千草支部 横山洋子）

自分にできるお手伝いを ～波賀ボランティア連絡会～



参加者14名が真剣に話に聞き入りました

3月29日(木)、波賀ボランティア連絡会がNPOピアサポートひまわりの家(山崎町段)へ視察研修に伺いました。

研修では、^{おおしたかひろ}大路貴広施設長がNPOの立ち上げから現在の取り組み、また引きこもりの若者の社会参加など「制度の狭間」にある方々への支援について熱い思いを語っていただきました。

同会の一野文^{いちのふみよ}代会長は「自分たちにできることは少ないですが、お店に来てお茶を飲むこともひとつの支援だとわかりました。自分にできるお手伝いをしていきたい」と話されました。

活動は違えど様々な思いを持ってボランティアに取り組まれているみなさん。今日の学びや気づきを、ぜひそれぞれの活動に活かしてください。

(波賀支部 田中祥仁)

岩野辺消防フェスタ2018 ～地域の“つながり”で “安全・安心”まちづくり～



隣保ごとに避難訓練を行いふれあい広場に集合

3月11日(日)、ふれあい広場(千種町岩野辺)で『岩野辺消防フェスタ2018』が開催され250人が参加されました。

この度28年ぶりに導入された消防車のお披露目や、炊き出し訓練、非常食の試食や消防士による消火器の使い方の体験があり会場は賑やかでした。

平瀬^{ひらせ}恒雄自治会長は「みんなで力を合わせて大成功でした。今後もこのようなフェスタを続けていきたいですね」と話されました。

今回、消防団を中心にいろんな世代の人が関わり、防災に対して住民の意識が高まった1日になりました。

(千種支部 横山洋子)

東北へ祈りの合唱

～3.11を忘れない～

東日本大震災から7年。ボランティアセンターでは、宍粟市ボランティア連絡会に協力いただき、市内4カ所で追悼行事を行いました。各会場で灯ろうにあかりをともし黙とうを捧げ、「花は咲く」を合唱し犠牲者に思いを寄せました。



宍粟防災センター



メイプル福祉センター



千種保健福祉センター



3月11日



一宮保健福祉センター

宍粟市出会いサポートセンター 9組のカップルが誕生!



春恋祈願 恋バスツアー開催

3月11日(日)、恋バスツアーを開催し29名の男女が春の淡路市でBBQを楽しみました。智禅寺で恋の成就を祈願し、クラフト作りやフリータイムなどで交流を深め、9組のカップルが誕生しました。この先は宍粟市結婚相談員がカップルの後押しをしていきます。